



特に印象深かったのは、現地の人の温かさです。訪問前は不安でしたが、皆さんの温かい歓迎で安心できました。また、互いの魅力を知り、伝えるために英語でのコミュニケーションは大切だと感じました。最初は慣れない言語で話しかけることに戸惑いでしたが、皆さんが注意深く耳を傾け、丁寧に話してくれて自信が持てました。遠く離れたまちに美しい自然や文化、温かい人がいることを知り、交流していることに幸せを感じました。



笑顔で迎えてもらい心が温まりました

Check
Instagramで発信中！

もっとクラムザッハの魅力を伝えたい！という思いから、派遣された皆さんでInstagramを開設し、情報を発信しています。



ぜひご覧ください

多様な価値観に触れて

山本莉子さん(16)

この経験で気づいたことは、言葉や習慣の違いを超えたコミュニケーションの可能性です。表情や身ぶりで思いを伝え合う中で、互いを理解しようとする気持ちが大切だと学びました。また、クラムザッハの皆さんの環境への配慮や持続可能な生活に触れ、物質的な豊かさだけではない幸せの形を考える機会となりました。今後も今回のような異文化交流を通じて多様な価値観を受け入れる柔軟さを育てていきたいです。また、相手を尊重する姿勢を忘れず、周囲に温かさを広げられるようにしたいと思います。



さまざまな体験で視野が広がりました



交流の理想の形

英百々子さん(17)

出発前から訪問先での交流の企画を考えましたが、現地では交流しているうちに準備した活動だけでなく、それぞれがその場で交流するようになりました。また、その場で生まれたアイデアの方が相手から大きな反応が返ってくることも多くありました。そして、その方がその場に混ざり、交流をしている実感がわきました。現代ではSNSを用いた交流もありますが、長い目でみるとそれだけでは不十分であると感じます。私は自身の体を動かして、相手の環境や価値観を肌で感じ、自ら働きかけることが交流の理想だと学びました。



自ら行動することで交流を実感！



ヨーロッパの自転車免許制度に関心があるため、アウトドアレジャーが盛んなクラムザッハではどのように自転車を楽しんでいるのか興味がありました。ホストファミリーにそのことを伝えたところ、まちをサイクリングする時間を作ってくれ、ホストファミリーの温かさを感じました。今回の訪問で文化や制度は異なっても人の温かさは共通だと知りました。住み慣れた場所から出て初めて分かることもあると思います。もっと若い世代にもぜひ訪れてほしいです。



人の温かさは万国共通でした

感じた温かさ

水谷俊介さん(17)

人が築くつながり 傳刀 かりんさん(17)

姉妹都市との交流は人と人とのつながりによって築かれていることを実感しました。温かく迎えてくれたホストファミリーの笑顔や過去の交流の思い出を語る地域の皆さんの姿から、安曇野市とのつながりを大切にしていることがわかりました。一方、クラムザッハの若者にとって、安曇野は身近ではないように感じました。このことから、世代を超えて交流を続けるには、若者同士の文化交流や情報発信が重要だと思います。

お互いを知るために若い世代での交流が大切！



食で伝える安曇野 井上 花子さん(16)

夕食会では、ホストファミリーや友好会の皆さんに日本の料理を振る舞いました。私はりんごナポリタンを作りました。現地の皆さんには「甘いリングとしゃべいナポリタンは合わないと思ったけど、おいしかった！」と完食してもらいました。クラムザッハの自然や歴史、まちの人の優しく気さくな人柄は、クラムザッハをまだ知らない若者に肌で感じてもらいたいものばかり。私も訪問してこのまちが大好きになりました。これからは安曇野の若い世代に良さを発信したいです。



Pick Up
交流を生み出す力

私たちができる交流って何だろう。出発前からその方法を考え、準備を進めました。日本食の振る舞いもその一つ。自分たちの企画を形にしました。現地では、飛び入りで地域のパーティーに参加し若い世代と積極的に言葉を交わすなど、自ら交流を生み出す力を身に付けました。



りんごナポリタンは現地でも大人気！

Next Stage 交流の継続・発展に向けて

クラムザッハを訪れ、現地の皆さんの暮らしや大切にしている思いに触れたことで、新しい発見や今までにない感覚に出会った高校生の皆さん。互いの文化を伝え合い、育まれてきたこれまでのあゆみは、次世代に受け継がれることでさらに価値を増して新たな形で発展し続けます。市では、今後も交流の継続と発展のために、魅力を知り伝え合う機会や交流の仕組み作りに取り組んでいきます。

Day9-12 ■クラムザッハ出発
ウィーンを経由し安曇野へ



Day8 ■クラムザッハ役場で
記者会見



Memo

地元メディア向けの記者会見に出席。アンドレアス・ガング町長は「クラムザッハの若者を安曇野へ派遣したい」と意欲を見せました。ステファン・シューラー友好会長は「友情は平和と交流への架け橋。友情が育まれれば争いは少なくなる」と交流の意義を話しました。

会見の様子は地元紙にも掲載



Day7 ■日本食を振る舞う

